

操作・洗浄・メンテナンスが容易な検出装置・計測装置を展開、リモートサポートも提案

エー・アンド・デイ

食品工場の人手不足対策において、工程管理における各種モニタリングの自動化・省力化を図ることは有効な手段の一つである。エー・アンド・デイ(A&D)では、X線検査機や金属検出機、ウェイトチェッカーなど、さまざまな自動計測装置を取り扱っている。いずれも直観的に操作できるデザインのタッチパネルを搭載しており、誰でも簡便に高精度のモニタリングが実施できる。また、HACCPでは記録に関する作業負担が増える場合があるが、同社の装置は「データ管理を容易にする」という観点でも配慮が行き届いている。洗浄やメンテナンスがしやすいデザインにもこだわっており、作業負担の軽減と労働安全を両立している。

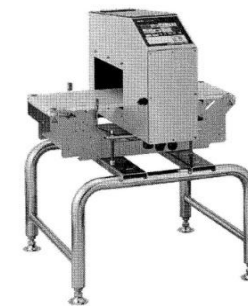
また、同社の主力装置は、遠隔操作機能を利用することで、外部との接続・通信が可能なシステムを構築できる。このシステムを利用することで、例えば装置の設置場所にA&D社のスタッフがいない場合でも、装置の画面を共有することで、装置の設置やメンテナンスのアドバイスやサポートなど、いわば“リモート操作”が可能となる。

X線検査機「AD-4991」シリーズは、異物検出、形状検査、個数検査・位置検査、検出物の質量推定機能など、多彩な機能を搭載。清掃性やメンテナンス性に配慮しており、装置はまるごと水洗い可能で、ベルト交換も容易。先ごろAD-4991シリーズは、多くの食品工場の包装ラインで悩みの種になっているシール部の「噛み込み」を検査する機能をオプションとして追加した。製造のさらなる効率化・省力化に貢献する新機能として期待されている。

また同社は今年初頭、金属検出機「AD-4976シリーズ」を発売した。同機種は、マルチ周波数対応（高周波帯域、中周波帯域、低周波帯域）で、最適な周波数を選んで安定的な検査を行う。ドライ品、ウェット品、アルミ蒸着包装品、脱酸素剤入包装品の脱酸素剤の欠品検出および金属検出に対応している。起動後すぐに安定した検査ができる点も特徴的だ。先ごろAD-4976シリーズは、ネジやパッチン錠などの金属金具を使用せずに、ベ

ルトコンベアのベルト下方に樹脂製プレートの取り付け・取り外しを可能とする技術で特許を取得した。この技術により、ベルトの交換などを含むメンテナンス性が、さらに向上すると期待されている。

ウェイトチェッカー「AD-4961」シリーズは、新設計のデジタルロードセルユニットと、高速処理が可能なCPUを搭載したコントロールボックスが、最高クラスの選別精度を実現する。全体を水洗いできるため、衛生管理も容易だ。



金属検出機「AD-4976」



X線検査機「AD-4991」



月刊『フードケミカル』 2020年8月号

発行元：株式会社 食品化学新聞社